

事務局だより

発行 福島大学人間発達文化学類
同窓吾峰会福島支部
発行責任者 渋谷 朗
発行年月日 令和7年2月19日



今時の若者たちに学ぶ

同窓吾峰会福島支部 副支部長 内藤 良行

“福島大学”が私の意識に入り込んできたのは、「教師」という職業が自分の明確な目標になった時。今思い出すと、それは高校生の進路決定の時だったように思います。今は亡き母が「教師になるのが夢だった。」と口癖のようにつぶやくのを聞いて育った私は、いつしか、教師になることを必然のように思い始めていたようです。それが、具体的な進路決定を迫られた高校3年生の時、福島大学に進学し福島教師になるという確信になりました。

昭和50年4月、福島大学教育学部に入學。そこから、福島大学との想像もしなかった縁に結ばれたつながりがスタートしました。学生、附属小学校教員、そして公立学校退職後に務めた特任教員時代と、合わせて19年間お世話になりました。入学当初、まさかこんなに長くお世話になるとは夢にも思っていなかったのですが、教職人生の半分近くを福島大学にお世話になりました。

教職生活最後の場となった福島大学での生活を振り返るに付け思い出される一つの出来事があります。最近、かつてのような大雪に苦勞する日々が極めて少なくなってきましたが、その年の冬は年末に、この時期には珍しい大雪が降りました。駐車場や道路の雪かきをしなければならない大変さを思い出してみると、すでに雪かきをしている見覚えのない学生の姿がありました。手袋もせず、スニーカーを履き、薄手のジャンパーを身に付けただけの、いかにも寒そうな格好の学生は、手にハーハー息を吹きかけながら駐車場付近の雪を黙々とかいていました。一言お礼を言おうと話しかけると、「日頃、何かと迷惑をかけているので…」と、消え入りそうな小声で応えてくれました。その朴訥な若者の姿に、雪降りの憂鬱は吹き飛び、体中が何ともいえない心地よい温かさで包まれました。

今、福島大学に通う学生たちは、以前（の私）とは様変わり。実に真面目で活発な現代っ子そのものです。よく我々の年になると、つい「今の若者は…」と苦言めいたことを言ってしまうのですが、今の福大生の姿から学ぶことは多々あります。出席率もよく、福島の復興に関わる活動にも積極的です。自分の生き方や在り方を考え、今の自分にできることに淡々と取り組もうとする若者が、先に紹介したように素敵な行動が取れる若者が確かにいるのです。

彼のような若者が如何に育てられてきたのか。久しぶりの大雪の日の出来事は、子供の心の教育の必要性や可能性を改めて考えさせてくれました。彼の在り方や道徳性をはぐくんだのは、すべて学校における教育であるなどとは言いませんが、学校でこそ、次代を担う子供たちに、社会生活を営む上での生き方や在り方の基盤となる道徳性をはぐくんでやるような心の教育を展開していかなければならない、そんな思いを強くした出来事でもありました。

様々な改革が模索され、新たな大学像を構築しようとしている福島大学では、現在、軸足を教員養成に戻そうとする人間発達文化学類の再編を含む全学再編に取り組んでいます。そんな福島大学には、現代の若者のよさを存分に生かしながら、教員養成の在り方を突き詰めてさらに充実させ、次代の教育、とりわけ福島県の教育を担う人材育成を担っていく大学として新たなスタートを切ってほしいと願ってやみません。

令和6年度 県大会いわき大会報告

令和6年度同窓吾峰会いわき大会は、令和6年10月12日(土)スパリゾートハワイアンズにおいて開催されました。福島支部からは渋谷支部長はじめ6名が参加しました。今回は、開会行事、昼食・交流、講演・アトラクションの順序で行われました。

開会行事では、金内三郎大会実行委員長から“フラの町いわき”への歓迎の言葉とともに会員減少・高齢化のお話があり、現在いずれの支部でも同じ課題を抱えていると思いました。

峯島和彦会長と大学の安田俊広評議員からは、令和9年4月から教育学部への大学再編の予定であるとのお話がありました。

講演は、アクアマリンふくしま館長古川健様から、「アクアマリン 子どもたちの未来を拓く水族館」と題して、大変素晴らしいお話をお聞きすることができました。基本理念「海を通して“人と地球の未来”を考える」を基に語られる様々な取り組みに引き込まれました。皆様ご承知の「潮目の海」を通して水族館の持続可能性や人と海洋の望ましい関係のことや有名なシーラカンスは、アフリカシーラカンスとインドネシアシーラカンスの同時展示が行われていること、東日本大震災からの復興における移動水族館のこと、カツオやイワシに見る食物連鎖のことなどなどアクアマリンの活動を興味深くお聞きできました。そして、最後にお話された「水族館は子どもたちの未来への動機付けの役割を担う」という言葉が強く印象に残りました。

アトラクションは、東日本国際大学附属昌平高等学校の昌平ウイラニ・ホア・ヘレの皆様による素敵なフラダンスのご披露でした。



峯島和彦会長



「浜田町キャンパスの思い出」

昭和53年卒 特別教科(保健体育) 半澤勇一郎

「浜田町キャンパスの思い出」についての原稿依頼がありました。気安く快諾したものの、50年も前のことなので記憶が曖昧だったり、思い込みで間違っていたりして、なんとも不安な気持ちで原稿を書き始めました。薄れた記憶を呼び起こしながら書いておりますので、間違いがあったらご容赦ください。



プールとグラウンド

さて、私は昭和49年春、福島大学教育学部特別教科保健体育に入学しました。当時の福島大学教育学部のキャンパスは福島市浜田町にありましたが、現在は福島県立福島東高等学校と福島大学附属中学校、幼稚園になっており、当時の面影はほとんど見受けられないのが残念です。



第二体育館

キャンパスの西側には木造の古い校舎と鉄筋コンクリート造りの理科棟、東側には400mトラック、テニスコート、バレーボールコートがあり、その間に北側から古びたプール、学生協の食堂、運動部の部室、柔剣道場、第二体育館、体育系の研究棟、第一体育館と体育施設が並んでいました。

私はバレーボール部に所属していたため、大学での活動の場は第二体育館と学生協の食堂がメインでした。第二体育館は、男女のバレーボール部、男女のバスケットボール部、バドミントン部が使用していましたが、バスケットボールコート一面が取れる程度の広さでしたので、時間制で譲り合って練習しており、夜7時からの練習(通称ナイター)もありました。

授業や練習の合間は学生協の食堂で過ごしていましたが、当時の食堂のメニューは、定食(定食は定食1・2とデラックス)、カレーライス、ラーメン程度で、私はいつもラーメンとカレーライス、500ccの牛乳で腹を満たしていました。テストが近くなってくると1枚10円のコピーには大変お世話になりました。

授業での思い出といえば、夏熱く、冬寒い講堂での授業です。冬は風通しの良すぎる広い講堂にストーブが一台で手袋と防寒着(オーバーやジャンパー)が必須でした。そんな環境での授業でしたが、一番印象に残っているのが、公衆衛生学の不破教授がいつも仰っていた「公衆衛生学で一番大切なことは、早期発見早期治療です。」という言葉です。世界中がコロナで大変だった三年間、特にこの言葉の大切さを痛感しました。

大学が松川キャンパスに移転してからは無くなってしまいましたが大学の周りには食堂や喫茶店、雀荘、焼鳥屋等があり、福島大学の学生で賑っていました。私の記憶が正しければ、当時の授業料は年間36,000円、タバコが1箱100円、ガソリンが1ℓ110円程度でした。今では考えられないような金額ですが、それでも仕送りしてもらっている学生はバイト無しには生活ができない状況で、男子は如月寮、女子は葵寮から通学してくる学生が多くおりました。



食堂風景

私は自宅通でしたが、先輩や友人の多くが如月寮に住んでいたため、自宅にいるより如月寮で中国語を勉強したり、スズラン通り(現在はパセオ通り)でアルコール消毒したりして楽しい大学生活を過ごしておりました。

古希を迎えて50年前の学生時代を振り返ると、反省することばかりですが、現在はバレーボールではなくバスケットボールのスポーツ少年団の指導を通して子供たちから元気を貰っております。

賀寿状贈呈

丹治 次夫 様

9月21日、渋谷支部長と遠藤浩寿評議員がご自宅へ訪問。教職の一番の思い出は、子どもたちと楽しく遊んだことと笑顔で話されました。二度目の岡山小勤務では最初の教え子たちが保護者としてたくさんいて今でも時々顔を出してくれるそうです。現在は、孫の面倒を見ながら畑仕事をしてお元気にお過ごしです。



福井チヨノ 様
(ご家族と共に)

12月7日、渋谷支部長と星富美子評議員が施設へ訪問。市作品展で受賞した俳句が飾られたゲストルームで贈呈しました。戦時中で苦労した師範学校時代、教員時代の思い出や、長く続けている俳句では、福島市作品展での受賞をしたこと、今も俳句を通して教え子との文通が続いていることなど、楽しく語っておられました。



中丸千恵子 様

1月9日、渋谷支部長と黒沢京子評議員がご自宅へ訪問。長年、婦人会や老人会の会長など地域の交流・活性化に貢献されたとのこと。元旦に95歳の誕生日を迎えられた今も、週3回公民館に出かけ、体操等を通して地域の方々と楽しく交流。元気の秘訣は体と頭を動かすことと笑顔で語っておられました。



米畑勇様へは、賀寿のお祝いを娘様へ、渋谷支部長と飯沼信一評議員がお届けいたしました。

斎藤エイ子様へは、賀寿のお祝いを息子様へ、猪股律文評議員がお届けいたしました。

おめでとうございます

令和6年度 同窓吾峰会研究奨励事業



(左)高橋副支部長 (中央)齋藤雅敬校長 (右)渋谷支部長



優秀賞 福島市立福島第三小学校

〈研究主題〉

やわらかな感性で、しなやかに
学び合う子どもの育成

～9つの力を育む教師の在り方～

編集後記

福島三小の研究奨励賞優秀賞の報告を掲載できましたことうれしく思います。また賀寿の方々のはつらつぶりにはいつも敬服至極、こういう生き方をしたいと力をいただきます。福大跡地を偲ぶシリーズは、金谷川キャンパスも検討中です。令和7年も健やかな年でありますように。